

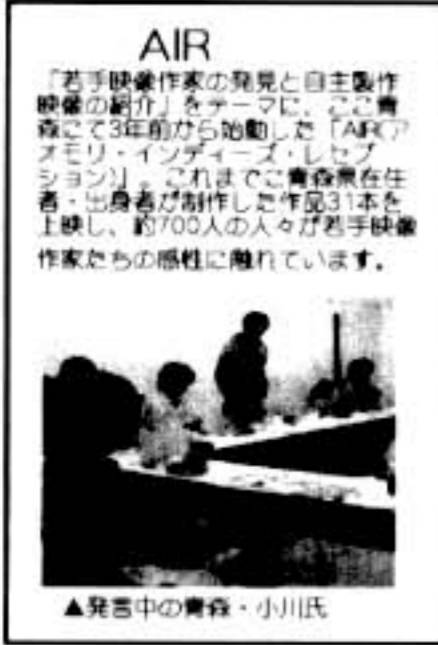
■青森 日沼直之 (Indian films)

「T5参加してみて」 2年3組 日沼直之

何年か前に今回の企画人「岸浪」が言っていた。「最近の人は映画を作る事に抵抗が無いというか、少ない」と、仙台のみならず青森くんだりでもそれは確かに言えると感じる。一言前は「映画撮ってるんです」という「えーっ！映画どえすかーっ！」という反応だったのが最近では「映画撮ってるんです」という「あっ私もです！」ってなもので撮ってる事が珍しいなんて事は全くなく、土産という脈の月レベルに当たり前の事になってきている。(それは言い過ぎですが・・・) そういう状況を改めて強く感じました。とにかく、各県いろいろな展開をされてきて面白いとおもいました。また今回参加した人が作った作品でおもしろい映画を今後見れる事を期待したいなと思います。何はともあれこのような場を作ってくれたスタッフに感謝です！



日沼直之
青森では知らない者はない有名な監督。マスコミ露出も多数。学生時代から映画製作をはじめ、社会人となってから製作した代表作「山男」で、地元青森并で盛り上げられる軽妙で爽快なアクションと美しい映像を受ける。関西などでも上映され、熱狂的なファンも。青森の御顔見者です。



AIR
「若手映像作家の発見と自主製作映画の紹介」をテーマに、この青森で3年前から始動した「AIR(アモリ・インディーズ・レセプション)」。これまで青森県在住者・出身者が制作した作品31本を上映し、約700人の人々が若手映像作家たちの感性に触れています。

■青森 小川公二 (AIR実行委員会代表)

今回の座談会、情報の少ない本州最北端の青森から行った私としては、今後の上映の方向性について考えさせられる時間でした。

まずは、各団体がいかにして上映会を盛り上げようとしているのか。チラシひとつから始まるイベントのPRの大事さ。そして、作品の質。でも、この座談会の時間の中で改めて大事なあと感じたことは、地元の人達との繋がり、信頼関係。イベントを続けていく以上、地元のお店などのスポンサーや、マスコミの人達との関係は非常に大事なことです。座談会当日もマスコミの方が熱心に取材していましたが、ああいった応援をしてくれる人達に感謝し、よりイベントの中身を高めていかなければならないなと感じておりました。

それから、イベントの方向性。正直、私達のような資金もない小さな上映会では、映画監督になる為の道を作ることは難しいのは事実。「びあ」や「水戸黄門」などと違い、大きなコネクションもない。そんな中で、どう地元の上映会の方向性を示していくか？

今や全国各地に自主映画のイベントがある。

帰りの電車の中で、その答えを探していましたが、結局、出た答えは地元出身・在住の作家をまずは応援していかうということ。自分達の仕掛けたイベントから一人でも映画人・映像人を輩出し、いずれその監督の特集を組めれば嬉しいことだろうなあと考えてました。

そう思っていたら今回の6月のイベントに、弘前市出身でニューヨーク在住の方が「ラジオを買った」と作品を応募してくれました。「いずれは日本で映画監督をやりたい」という、その女性監督。コロンビア大の映画監督コースで制作したというその作品は確かに見応えがあり、最終的に「応援していきたい」と思えるものでした。

東北各県の同じ「想い」を持つ方たちの話を聞き、自分達のイベントの在り方を考えさせてくれた今回の座談会は、貴重な貴重な時間だったと思います。まずは、今回の企画を実現させた主催者の皆様には心から感謝をしたいと思います。ありがとうございました。今後も本州最北端の地・青森で頑張っていきたいと思っております。

■宮城 AOGP

鈴木直樹 (AOGP代表)

http://www.010.upp.se-net.ne.jp/A_O_GaRDeN/index.html

各映画祭において作品を上映する側がいかに制作者・観客双方のことを考えていないかが露呈してしまった座談会だと思います。一般の方々にはきくと聞いていてがっかりしたのではないのでしょうか。仙台短編映画祭と一般の方々を除けば、他団体はうちの団体と共通の問題意識を持っていなかったことが分かり、また特にならぬ意見も出なかったのが残念に思いました。AOGP代表 鈴木直樹

AOGP [AKAIWAI OHOLIC GARDEN PROJECT]
映像・映画をとおしの人たちのコミュニティづくりをめざし仙台を拠点に活動している団体。みる人、つくる人から、映像以外の分野で活動している人たちまでも、まきこんで、映像を媒介に多くの人たちが出会い、ふれあうことのできる場を、さまざまな方たちで提供していこうという、現在仙台でもっとも活動的な団体です。
主な活動内容は、・イベントの企画と実施・ウェブサイトを運営して情報を配信・仙台で活動する映像作家の製作や作品上映への支援など、幅広く活動中。上記HP上でも鈴木直樹さんのこのイベントについての批評が読めます！要チェック！

■宮城 ショートピース! 角田まゆみ (ショートピース代表)

<http://www.shortpiece.com/>

映画祭を作るにしても、映画を作るにしても、すべての何かを生み出す場合において、大切なのは批評されるという健全さのように思います。仙台はいろいろな集団がひしめき合っていて、それぞれが動いています。あまりにも独自にやっているので、結局ひとりよがりになってしまいがちです。ですから自戒も込めて、今後は様々な人の眼にさらされながら、映画祭を作っていけたらいいなと思います。

ショートピース 仙台短編映画祭
2001年から開催。昨年だけで観客動員数1000人以上を記録。仙台最大手の映像イベント。コンペティションを開催・俳優や有名監督を起用しているトークなど、映画祭に馴染みがない企画がめじる押し。今年の開催も決定。詳しくは上記アドレスからHPを御覧ください。

■岩手 藤井 純一 (映像作家)

・東北五県合同上映会&座談会の成功おめでとうございます。大変御苦労さまでした。とても良い企画なので、今度は会議室ではなく上映ホールの方で、観客一体となったシンポジウム形式で、又、東北から北関東まで呼んで「東日本合同映画上映会」というのはどうでしょうか。そして、北陸や北海道と範囲を少しづつ広げて広く出会い、インパクト・インスパイアしあうのも良いのではないのでしょうか。派手にやるという意味ではなく、「こういうことが行われている」ということを少しでも多くに知ってもらう意味で各県の新聞、できればTV・ラジオの地域番組でも取り上げてもらえるよう努力してみるのも良いかと思えますが・・・。それぞれの力作を観るのは楽しいことで、それを個人の作品ということとともに、あえて県という一つの単位の枠組みで比較してみるのも(今回全部は見れませんでした)楽しい経験で、又それらを作ったり、上映したりしている人々と直に一つの場所でお話を聞いたことがとても良い経験でした。これからもますます頑張ってください。

藤井純一
学生時代より映画を製作。95年、「口紅」。(出演/船万葉・あがた森島他/16ミリFILM)を監督。あちなくミステリー映画祭をはじめ各地で上映され、好評を得る。現在も映像を中心として活動中。新作製作を目指し、シナリオ多数執筆中。

■宮城 ミッツカヤスオ (観客参加/映像作家)

<http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Cinema/1124/>

今年のPFFアワードの応募総数655本、そのうち東北からは7本とさびしい限りです。座談会では情熱を持って活動している人が確かにいることを知って、勇気づけられました。

自主制作映画には内向的だとか、貧乏くさいなどのイメージがあると思うのですが岩手の「MOVIN'3」のスタッフがオシャレでかっこいい上映会をやり、結果を残しているのには自主制作映画の今後の展望が見えるような気がします。

ミッツカヤスオ
映画製作や、劇団の公演のメイキングビデオなどを制作する傍ら、HP「MOVIE's HIGH」で仙台のインディーズムービー製作/上映情報を発信。

■宮城 秋山 仁 (観客参加)

結局座談会に問題があるとしたら、ホスト役がいなかったことに集約されると思いますが、もっとつっこんだ言い方をすれば誰がホスト役になればいいかわからなかったってこと。

机が口の字型になっていてゲストと見学に来た人との間に垣根ができていたり、お茶がでなかったり(個人的なことですが)、話の膨らませ方が中途半端だったり、何が議題として上がっているのかわかりにくかったり、これらのことが問題になるのは会場全体を見回して、問題が発生したらすぐにその場で判断を下すホスト役に回る人がいなかったってことだと思います。

もちろんホスト役がいなくてもうまく会がまとまることもあるんですが、そういうときは個人個人が周りに気を使うことが条件となるので、今回のようにゲストとして来ている人が多いときは、あまり周囲に気を配ると逆にゲストとしての規範を逸脱すると考える人もいるんじゃないかと思うので、やはりホスト役が必要だったんじゃないかなと思います。

■宮城 匿名希望 (観客参加)

12時からの岩手県のインディーズ映画上映会を観、その後「東北映像製作会議」第一部を見せていただきました。

岩手県のは、作品予告編と、短編の映画でした。「んん？」というのから「これ、ぜひ本編を観てみたいなあ」と思わせるものまで、様々でした。「Little Morioka Story」は映像もおしゃれだしお話も面白そうだし、観てみたいです。”街が主役”っぽいけど、仙台でそういう趣旨で作ったらどうなるかな・・・なんて考えてしまいました。

短編のも、ほんとにアニメーションあり スケッチ風実写あり ショートコントっぽいものありで、いろいろ楽しめました。映像でいろんなことできるんだなあ、みんな頑張ってるなあ、と思いました。

座談会のほうでは、東北各地のインディーズ上映団体が、どんなふうにも活動を展開しているかを興味深く聞きました。やはりそれぞれ特色があって、戦略とかが違って、面白いです。「見せる」ほうでも、やっぱりみんな、頑張ってるんですね。

上映会を催す人でありつつ一方、アーティストでもある方が多いので、なかなかこういった座談会をまとめるのは大変かと思います。でも情報交換&、作品を観る以外お互い刺激を受ける場、というのは、とても重要だと感じました。見学する人ももっといいのにもっといいです。(一応匿名で・・・ふだんは演劇ファンのFより)